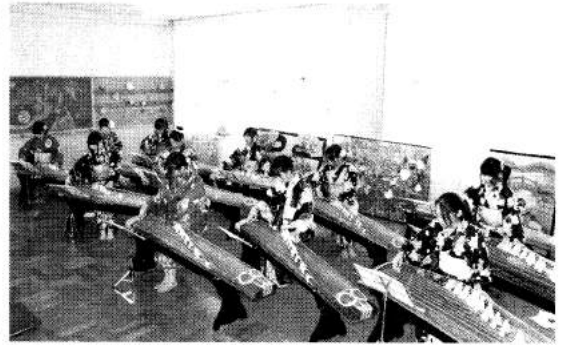


私の宝物

望月 明

この度の人事異動で、一宮工業高校に転動になりました。十一年間、大変にお世話になりました。一宮西高校は、生徒にとつて夢をかなえる学校であり、私にとつては夢のような学校でありました。授業が終わると、すぐに質問をしに来る生徒があり、勉強に対する熱意が感じられ、教えることに喜びを感じる日々でした。部活動や学校行事でも、生徒の皆さんが、先生方と信頼関係で結ばれ、何事にも一生懸命に取り組む姿に驚きました。

進路希望を実現するという目標と、日々の学校生活を楽しく充実して過ごすという願望を、二つ同時にかなえるのは大変に困難なことです。一宮西高校は、それを可能にしている希有な学



校であるといえます。そして、それを可能にしているのは、先生方と生徒の皆さんの「高い志」だと思います。数多くの一宮西高校での思い出から、最も深く心に残った「志」についての話を書きたいと思います。

赴任して四年目、初めて三年生の担任をした時のことです。九月の学校祭で、クラスは大活躍をして、さまざまな賞をもらい、生徒同士の仲も大変良くなりました。ところが、学校祭の思い出に浸り、いつまでたっても気持ちには受験に切り替わっていかないので、私は担任としての焦りがあつたために、「だれのために勉強しているんだ。自分のためだろう。いつまで浮ついた気持ちでいるんだ。」と声を荒げてしまいました。叱りつけた後で、自分の焦る気持ちを、生徒に投げつけてしまったという苦しい気持ちがこみ上げてきました。不機嫌な顔をして教室を出る

と、一人の女子生徒が追いかけてきました。彼女はニコニコとしながら「先生。わたしは、これから未来に出会うはずの、誰かのために勉強しています。世の中には、人の助けがなくては生きていけない人が大勢います。わたしはそんな人を助けたい。だから、わたしは『わたしの助けを待っている誰か』のために勉強しているんです。このことが言いたくて」と言つて、真っ直ぐに私の目を見つめています。私は、彼女に返す言葉がありませんでした。彼女は「大丈夫ですよ。皆、わかつていますから。」と言つて教室に戻って行きました。彼女は、私の焦る気持ちも見抜いていたのです。この生徒は、私よりもずっと高いところから人生を見ている。いつの間にかこんなに成長していったんだと思うと胸が熱くなりました。生徒から「教えられる」というのは、教師冥利に尽きます。このように素晴



らしい生徒との出会いがたくさんありました。

与えるつもりが、与えられる。助けているつもりが、助けられている。こういった人間関係が西高の魅力ではないでしょうか。それを支えているものが「高い志」と品格だと思つたのです。一宮西高校での生活は、私の宝物です。夢のような年月を与えてくださった諸先生方と生徒諸君に厚くお礼申しあげます。素晴らしい西高と同窓会がますますのご発展をお祈り申し上げます。

同窓会費納入及び協力金のお礼

昨年度も例年通り同窓会費(年間二千円)の納入をお願いしましたところ、二百七十三名の方から会費をいただくことが出来ました。同時にお願ひしました協力金とあわせて、七十六万九千八百三十円をいただくことが出来まし

昨年度の同窓会活動報告

た。ご協力ありがとうございました。今年度も、年会費二千円とは別に、一口千円を協力金としてお願ひしたいと存じます。同封の振込用紙をご利用の上、郵便局からお振込ください。よろしくお願ひいたします。

一、同窓会総会の開催

平成二十五年八月三日(土)尾張一宮駅前ビル七階シビックホールで開催。旧・現職員、一般会員合わせて百四名ほどの参加をいただきました。

二、「同窓会報」第二十八号の発行
平成二十五年七月七日に発行いたしました。

三、同窓会郵送料カンパの実施

今年度も別記のとおり実施いたしますので、ご協力よろしくお願ひいたします。

四、東京支部会の開催

平成二十五年十二月七日(土)新宿にて開催。西高側からは、鈴木校長、平澤先生、同窓生でもある丹下先生が出席され、合わせて二十名ほどの参加がありました。

五、同窓会入会式および卒業記念品贈呈式

平成二十六年二月二十八日(金)に実施されました。第四十八回生三百七十七名が同窓会に入会し、一般会員総数は一七、七二十四名になりました。また、卒業生には、卒業記念品として、証書筒を贈呈しました。